

- 問1 1ドル80円前後であった為替相場が、数年かけて1ドル120円を超える水準まで変化した場合、この状況が日本の輸出産業に与える影響と名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2018年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 円の価値が上がる「円高」の状態であり、海外から輸入する原材料の価格が上がるため輸出に不利に働く。 | 2. 円の価値が下がる「円安」の状態であり、海外から輸入する燃料の価格が下がるため輸出に有利に働く。 | 3. 円の価値が上がる「円高」の状態であり、海外で日本製品が高く売れるようになるため輸出に不利に働く。 | 4. 円の価値が下がる「円安」の状態であり、海外で日本製品が安く売れるようになるため輸出に有利に働く。 |
|---|--|---|---|
- 問2 日本の清涼飲料水の生産と出荷に関する統計において、ミネラルウォーター類の特徴を「生産量100万kLあたりの出荷額」という観点から説明したものとして、適切なものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|--|--|---|
| 1. 他の主要な品目と比較して、一定の生産量に対する出荷額が最も低い。 | 2. コーヒーや果実飲料と同様に、生産量が増えるほど出荷額の効率も比例して高くなる。 | 3. 単位数量あたりの出荷額が最も高く、清涼飲料水の中で最も収益効率が良い。 | 4. 原材料費が高いため、生産量が少ないにもかかわらず出荷額が茶系飲料を上回っている。 |
|-------------------------------------|--|--|---|
- 問3 日本の貨物輸送において、1970年代から2000年代にかけて鉄道輸送の占める割合が激減し、自動車輸送が主流となった主な理由として、当時の社会状況をふまえて説明したものを選んでください。 (2025年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 高速道路網が全国的に整備されたことで、戸口から戸口へ（ドア・ツー・ドア）の柔軟な配送が可能なトラック輸送の需要が高まったため。 | 2. 鉄道運賃が自動車の燃料費に比べて極端に高騰し、企業が鉄道利用を全面的に禁止する法律が施行されたため。 | 3. モータリゼーションの進展により、自家用車を所有する世帯が増えたことで、貨物列車を走らせる線路の余裕がなくなったため。 | 4. 環境問題への意識が高まり、排気ガスを出さない電気自動車が1970年代のうちに全国の貨物輸送の9割を担うようになったため。 |
|--|---|---|---|
- 問4 日本各地の沿岸部に点在する石油化学コンビナートについて、その立地上の特色を正しく説明しているものはどれですか。 (2022年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 主原料である原油の輸入に便利な港をもち、関連する工場群が効率的に生産を行うため、臨海部に形成されている。 | 2. 水資源を大量に消費するため、大規模なダムが建設された河川の上流部や内陸の湖畔に形成されている。 | 3. 騒音や大気汚染を防ぐため、消費地である大都市から遠く離れた離島や内陸のへき地に形成されている。 | 4. 原料が重く、製造過程で重量が大幅に減少するため、原料の産地である山間部に形成されている。 |
|---|--|--|---|
- 問5 日本の農業と食料問題に関連して、国民1人当たりの米の年間消費量の動向について述べた文として、統計的な事実に基づいた正しいものはどれですか。 (2021年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 1人当たりの米の年間消費量は、1962年の約120kgから2018年には50kg台まで減少している | 2. 1人当たりの米の年間消費量は、1960年代から大きな変化はなく約120kgで推移している | 3. 1人当たりの米の年間消費量は、高度経済成長期から現在まで一貫して増加傾向にある | 4. 1人当たりの米の年間消費量は、冷害などの気候変動によって年ごとに激しく増減している |
|--|---|--|--|
- 問6 日本の自動車の輸出状況および主要国の生産体制に関する記述として、統計上の事実と合致するものを次の中から選びなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 日本からアメリカへの自動車輸出台数は2000年以降減少の一途をたどっているが、中国の自動車生産台数は2000年から2010年にかけて急激に増加した。 | 2. 2000年と2013年の数値を比較すると日本からアメリカへの自動車輸出台数は増加しており、21世紀初頭の10年間で中国は世界有数の自動車生産国へと急成長した。 | 3. 日本の自動車輸出先はすべての地域において2000年より減少しているが、中国だけは自動車生産台数を2010年に向けて維持し続けた。 | 4. ドイツの自動車生産台数は2000年から現在まで増加し続けており、日本の自動車輸出先はアジア向けよりもヨーロッパ向けの増加率の方が高い。 |
|---|--|---|--|
- 問7 周囲を険しい山々に囲まれた急峻な地形を利用し、巨大な堤体に貯めた水の落差によってタービンを回して電力を得る「水力発電」の特徴として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|--|---|
| 1. 天候や時間帯による発電量の変動が大きく、太陽光発電よりも出力が不安定である。 | 2. 農地に水を供給する「灌漑」を唯一の目的として運用される仕組みである。 | 3. 主に海外から輸入した天然ガスを燃焼させることで、水の勢いを強める仕組みである。 | 4. 発電時に二酸化炭素をほとんど排出しない、再生可能エネルギーの一つである。 |
|---|---------------------------------------|--|---|
- 問8 新潟、富山、石川、福井の4県の沿岸部に広がる北陸工業地域の特色について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 機械や金属、化学工業などの近代産業が発達する一方で、加賀友禅などの伝統産業も盛んである。 | 2. 東京や神奈川を中心とした広大な消費地を背景に、印刷業や食料品工業が極めて盛んである。 | 3. 明治時代に建設された官営製鉄所をきっかけに発展し、古くから鉄鋼業が地域を支えてきた。 | 4. 瀬戸内海の交通の利便性を活かし、大規模な石油化学コンビナートや製鉄所が集中している。 |
|---|---|---|---|
- 問9 1960年から2019年にかけての日本の輸入相手地域の変化について、統計的な傾向を説明した文として正しいものはどれか。 (2022年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. ヨーロッパ州とオセアニア州からの輸入割合の合計が、アジア州からの輸入割合を上回るようになった。 | 2. 1960年に輸入総額の約4割を占めていたアジア州の割合が低下し、アフリカ州からの割合が最大の輸入相手となった。 | 3. 1960年に輸入総額の約3割を占めていた北アメリカ州の割合が低下し、アジア州からの割合が約6割近くまで拡大した。 | 4. 北アメリカ州からの輸入割合は一貫して拡大し続け、2019年には輸入総額の半分以上を占めるようになった。 |
|--|--|---|--|
- 問10 東京駅から新大阪駅を結ぶ主要な鉄道路線において、神奈川県の小田原市付近を通り、太平洋側の地域を走行する経路がとられているものがあります。この路線が通過する都道府県として正しいものはどれですか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| 1. 長野県 | 2. 福井県 | 3. 愛知県 | 4. 和歌山県 |
|--------|--------|--------|---------|
- 問11 高知県や宮崎県などの産地において、ビニールハウスなどの施設を利用し、本来の収穫時期よりも早い時期に野菜を出荷する「促成栽培」が行われる目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|--|
| 1. 標高の高い地域の冷涼な気候を活用し、夏の暑い時期に不足する野菜を供給するため | 2. 冬の厳しい寒さを利用して、作物の糖度を高めブランド価値を上げるため | 3. 大消費地である都市の近くで栽培し、輸送にかかる時間とコストを削減するため | 4. 他の産地の出荷が少ない時期に市場へ出すことで、有利な価格で販売するため |
|---|--------------------------------------|---|--|